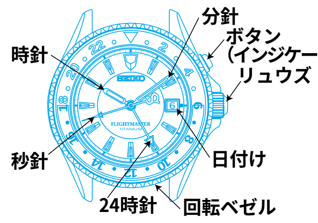
■製品の特長

一般のクオーツ腕時計はボタン電池で動きますが、セイコーキネティック（5M65）は“時計を振る”ことによって内蔵された発電機が回され、発電した電気をキネティックE.S.U.に蓄えて時計を動かすというSEIKO独自の機構をもつクオーツ時計です。従って、電池交換の必要はありません。

あと何日動くかを針の動きでお知らせするインジケーター機能付きです。フル充電で約４～６ヵ月動き続けます。



また、海外旅行中における時差修正や24時針でホームタイム表示としてもご使用いただけます。回転ベゼルの目盛りと24時針との使いかたで、多用な読み取りが可能です。国際的に活躍される方に特にご利用価値があります。一般のクオーツとは違い、海外旅行中の電池寿命切れ・電池交換を気にすることなく、ご使用いただけます。

⚠注意

- あなたの腕の動きを電気に変換して蓄える方式です。静止したままでは充電されません。
- 目安として１日10時間以上の携帯をおすすめします。
- 充電量が残り少なくなると、秒針が１度に２目盛りずつ運針（以下の説明では〈２秒運針〉と表現します）してお知らせします。２秒運針になってから約１日以内に止まる可能性がありますので、「●充電のしかた」をよくお読みになって充電をしてください。

■ご使用にあたって

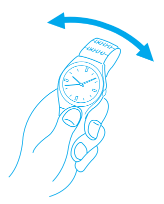
●充電のしかた（止まっている時計を動かすには）

①時計を右の図のように矢印の方向に振ってください。１秒間に２往復のリズムで、振ってください。この時、秒針は２秒運針で動き始めます。約250回（往復）振ると２秒運針が通常の１秒運針になります。約１日分のエネルギーの蓄えができたことになります。

※１秒間に２往復程度の早さで、約20cm位の距離を往復させる様に振っていただくことが最も効率的です。

※極端に早く激しく振っても効率の良い充電はできません。

※発電機を回す回転錘の音が聞こえますが異常ではありません。



②さらに振り続けて１日分の追加充電をしてから携帯することをおすすめします。この時計はフル充電で約４～６ヵ月の持続時間を得られますが、初めにフル充電にしていただく必要はありません。

１日の充電量を確保するためには約200 ～250 回（往復）が必要です。

※蓄えられた充電量はインジケーターで調べることができます。（「インジケーターの使いかた」を参照）

※手振りによる充電の直後はインジケーターの示す充電量が若干多めに出る場合がありますので、10～15分後に再度ご確認下さい。

※フル充電状態からさらに充電しても過充電防止回路が働きますので、安心してお使いいただけます。

●充電量を調べるには？（インジケーターの使いかた）

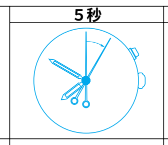
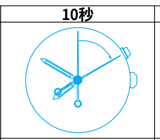
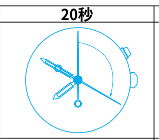
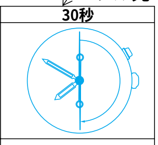
- 発電し蓄えられた充電量を調べることができます。
- 今からどのくらい動き続けるか（持続時間）が分かります。
- ボタンを押すと運針中の秒針が早送りし、その早送りする秒数で持続時間を示します。
- 携帯中に充電状態を確認する時や腕から外しておく時など、後どのくらい動き続けるかを確認できます。

〈インジケーターが表示する意味〉

インジケーターはキネティックE.S.U.に蓄えられた充電量を調べ、４段階の表示で示します。段階的で幅をもった表示のため時計が動きつづける時間を細かくは表示できません。

インジケーターの表示

フル充電表示

	5秒	10秒	20秒	30秒
秒針の早送り量				
充電量（持続時間）	約１日～約７日	約７日～約１ヵ月	約１ヵ月	約４～６ヵ月

※インジケーターで示す持続時間は目安としてお使いください。インジケーターの表示が実際の持続時間と異なる場合があります。

※早送り後、秒針はその位置にとどまり、その後は正確な時刻を示します。

※インジケーターは２回まで続けてご使用できます。つまり、秒針が充電量を示し、一時的に留まっている最中にもう一度ボタンを押すと、再び秒針が早送りします。よって「10秒」の表示をした場合は、１回目と２回目とで20秒の早送りすることになります。充電量はあくまでも「10秒表示」分の意味です。もう一度確認する場合は、秒針が通常運針になってからボタンを押してください。

※２秒運針時は、インジケーター機能はありません。

●フル充電表示（インジケーター30秒表示）について

- インジケーターの30秒表示はフル充電の意味になります。上記のように約４～６ヵ月の充電量が確保できたということです。

  ※手振り充電直後はインジケータが示す充電量が若干多めに出る場合がありますので10～15分後に再度ご確認ください。

●２秒運針になったら（秒針が一度に２目盛ずつ運針する状態）

- 携帯中もしくは外して置いてある時計が２秒運針を始めますと、約１日（24時間）以内に止まる可能性がありますので充電をしてください。（「●充電のしかた」を参照）

※２秒運針の場合は、インジケーター機能はありません。

※２秒運針中でも時刻表示は正常です。

■時刻の合わせかた（24時針の使用用途に２つのタイプがあります）

充電して秒針が通常運針になってから「時刻合わせ」をします。（「●充電のしかた」を参照）この時計の24時針の使いかたには、２つのタイプがあります。そのタイプによって時刻の合わせかたが異なりますので、どんな使いかたにするか選択してから時刻合わせをしてください。

〈タイプ１〉24時針を単なる24時針（午前・午後が読める）として使用する場合。

- 普通の使いかたがこのタイプになります。
- たとえば、24時針を日本時間に合わせておくと、海外旅行中に旅先の時刻を時針・分針で表示しても、24時針で日本時間を見ることができ便利です。
  この時の日本時間をホームタイムと呼ぶことがあり、以下の説明ではそう表現します。

〈タイプ１の例〉

〈タイプ２〉24時針に他の地域の時刻を表示させて使用する場合。

- 住む場所とは異なる時刻（時差のある時刻）に合わせておき、24時針と時分針とでデュアルタイム表示として使用する場合にこのタイプを選びます。
- たとえば、24時針を世界標準時（GMT）に合わせ、時分針を日本時間に合わせると、いつでも24時針でGMTを確認できることになります。

【24時針を普通の24時針として合わせる方法】〈タイプ１を選択した場合〉

①ネジロックリュウズの場合はリュウズを左に回してネジロックをゆるめます。（通常のリュウズでは、この作業はありません。）

※時計が動いていないと時刻合わせができません。充電をしてから時刻合わせをしてください。（「●充電のしかた」を参照）

②リュウズを２段目まで引き出してください。

※秒針が止まりますので、秒針が０秒に来た時に引き出してください。

③リュウズを右に回し、24時針と分針に注目し現在時刻に合わせます。現在時刻の午前午後に注意して合わせます。

〈例〉午前10時０分に合わせる場合は・・

24時針を10時位置（５時方向）に分針を０分に合わせます。

午後６時０分に合わせる場合は・・

24時針を18時位置（９時方向）に分針を０分に合わせます。

※時針が合わせる時刻と異なる時間を示している場合がありますが、24時針と分針とで合わせてください。（時針は後から合わせます。）

※この時、時針の位置によって日付けが修正される場合がありますが、これも後で合わせられますのでご安心ください。

※合わせる時刻より４～５分進めてから逆に戻して合わせてください。

④時報と同時にリュウズを押し込んでください。
24時針、分針、秒針の合わせができました。

⑤時針を現在時刻に合わせます。リュウズを１段目まで引き出してください。

⑥リュウズを左回転させ、現在時刻に合わせます。

☆日付けを合わせる場合は、ここで一緒に合わせてください。
（詳しくは「■日付けの合わせかた」を参照）

※日付けが変わるところが午前０時ですので、午前午後を間違いなく合わせてください。

※リュウズの回転の際、時針の１時間単位の動きを確認しながら静かに回してください。

※時針を修正している時、その他の針が少し動きますが故障ではありません。

⑦合わせ終わったらリュウズを押し込んでください。ネジロックリュウズの場合はさらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

このタイプでの時刻合わせができました。海外旅行中などで時針を単独に修正（時差修正）したときは、24時針がホームタイムとして機能を果たすので便利です。（「■時差修正の使いかた」を参照）

【24時針を他の地域の時刻24時針として合わせる方法】〈タイプ２を選択した場合〉

〈例として24時針でGMTを表示し、時分針で日本時間を表示させる方法で説明します〉

①ネジロックリュウズの場合はリュウズを左に回してネジロックをゆるめます。（通常のリュウズでは、この作業はありません。）

※時計が動いていないと時刻合わせができません。充電をしてから時刻合わせをしてください。（「●充電のしかた」を参照）

②リュウズを２段目まで引き出してください。

※秒針が止まりますので、秒針が０秒に来た時に引き出してください。

③リュウズを右に回し、24時針と分針に注目し合わせたい「他の地域」の時刻に合わせます。午前午後に注意して合わせます。時差については事前に調べておきましょう。（「■都市と時差の比較表」を参照）

〈タイプ２の例〉

〈例〉世界標準時（GMT）に合わせる場合

日本時間午前10時０分の場合、GMTは午前１時０分なります。

24時針を午前１時に合わせる場合は、

・24時針を１時位置（12時と１時の間）に、分針を０分に合わせます。

※時針が合わせる時刻と異なる時間を示している場合がありますが、24時針と分針とで合わせてください。（時針は後から合わせます。）

※この時、時針の位置によって日付けが修正される場合がありますが、これも後で合わせられますのでご安心ください。

※合わせる時刻より４～５分進めてから逆に戻して合わせてください。

④時報と同時にリュウズを押し込んでください。
24時針、分針、秒針の合わせができました。

⑤時針を現在時刻（日本時間）に合わせます。リュウズを１段目まで引き出してください。

⑥リュウズを左回転させ、現在時刻に合わせます。

☆日付けを合わせる場合は、ここで一緒に合わせてください。
（詳しくは「■日付けの合わせかた」を参照）

※日付けが変わるところが午前０時ですので、午前午後を間違いなく合わせてください。

※リュウズの回転の際、時針の１時間単位の動きを確認しながら静かに回してください。

※時針を修正している時、その他の針が少し動きますが故障ではありません。

⑦合わせ終わったらリュウズを押し込んでください。ネジロックリュウズの場合はさらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

このタイプでの時刻合わせができました。時分針で現在時刻を見ながら、24時針で特定の地域の時刻をいつでも確認でき、便利です。24時針に表示させる時刻を変更する場合は、このタイプの操作①からあらためて行ってください。世界各地の時差については「■都市と時差の比較表」を参照ください。

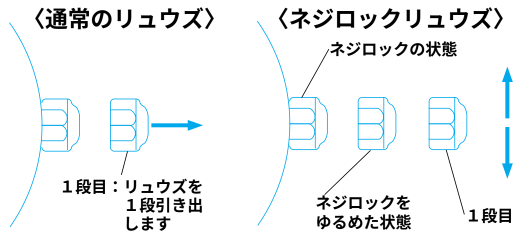
■日付けの合わせかた

- この時計の日付けの修正は、時差修正の方法で時針を２周させて１日分の日付け修正を行います。（「■時差修正の使い方」を参照ください。）
- 時針を時計回りに２周させると「日を送る」こととなり、逆回転させると「日を戻す」ことができます。
- 時刻合わせの後の日付け合わせや、前月が小の月（１ヶ月の日数が30日の月と２月）である場合の月初の日付けの修正のとき行ってください。

①ネジロックリュウズの場合はリュウズを左に回してネジロックをゆるめます。（通常のリュウズでは、この作業はありません。）

②リュウズを１段目まで引き出してください。

③リュウズを回転させ時針を２周させる毎に、日付けが「１日分」修正できます。



右回転：時針は時計回りと逆方向に回転し、時針を2周させると日付けが1日戻ります。

左回転：時針は時計回りに回転し、時針を２周させると日付けが１日進みます。

※日付けはどちらの方法で修正してもかまいません。日付け修正が少ない方向を選択してください。

※リュウズの回転は静かに行ってください。

※２周単位で時針を回転させると、時刻を変えることなく日付の修正ができます。

※時針を修正している時、その他の針が少し動きますが故障ではありません。

④日付け合わせが終わったら、時針の位置を再度確認してリュウズを押し込んでください。ネジロックリュウズの場合はさらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

■時差修正の使いかた

- 海外旅行等で時差のある地域へ移動した場合、時計を止めることなく現地の時刻に合わせられます。
- この修正は、日付けに連動していますので、時差の修正を行うと現地の日付けを表示させることができます。

【時差の求めかた】

- 時差修正の前に、修正する「時差」を正確に知っておくことが重要です。
- 単に時計の表示を現地の時刻に合わせるだけでは、午前と午後および日付けが合わない場合もあるので正しい時差を求める必要があります。

〈計算方法〉

Ａ地域にいる人がＢ地域へ移動したとすると、それぞれの地域のGMTからの時差の数値を使い計算します。（「■都市と時差の比較表」参照）

- Ａ地域のGMTからの時差を〔ａ〕、Ｂ地域のGMTからの時差を〔ｂ〕とした場合、修正するべき時差は、
  〔ｂ〕－〔ａ〕で求められます。

《例》日本からアメリカのニューヨークへ移動した場合、

Ａ地域日本（東京）のGMTからの時差〔ａ〕＝（＋９）

Ｂ地域ニューヨークの　〃　　〃　〔ｂ〕＝（－５）

◎修正すべき時差＝〔ｂ〕－〔ａ〕＝（－５）－（＋９）＝（－14）時間

※サマータイムを使う地域では、GMTからの時差の数値を「＋１」時間して計算します。

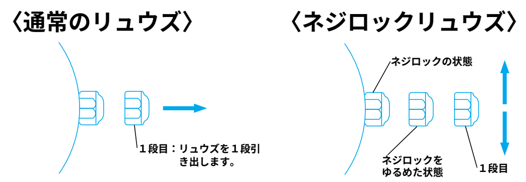
〈時差修正のしかた〉

【時差の求めかた】で計算した値などで時差修正します。

①ネジロックリュウズの場合はリュウズを左に回してネジロックをゆるめます。（通常のリュウズでは、この作業はありません。）

②リュウズを１段目まで引き出してください。

③リュウズを回転して時差修正をします。1時間単位の進みかたを確認しながら回してください。



右回転：マイナス時差修正

左回転：プラス時差修正

※時差修正はどちらの方法で修正してもかまいません。時差修正が少ない方向を選択して下さい。

※時差修正をするときには、午前･午後および日付け等にご注意ください。

※リュウズの回転は静かに行ってください。

※時針を修正している時、その他の針が少し動きますが、故障ではありません。

※右回転で時差修正をしてAM0:00を通過してPM9:00～AM0:00付近に合わせる場合は一旦PM8:00まで戻し合わせてください。

④時差修正が終わったら、リュウズを押し込んで下さい。
ネジロックリュウズの場合はさらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

■都市と時差の比較表

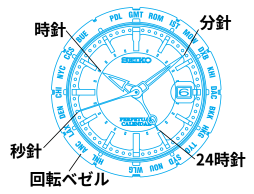
GMTは、グリニッチ標準時を示しています。＋はGMTより進み、－は遅れを示しています。

GMTとの時差	都市名		サマータイム有	その他の都市（●印はサマータイム有）
0	LONDON	ロンドン	●	カサブランカ, ダカール
＋1	PARIS	パリ	●	●アムステルダム, ●フランクフルト ●ベルリン
	ROME	ローマ		
＋2	CAIRO	カイロ	●	●アテネ, ●イスタンブール, ●キエフ, ケープタウン, トリポリ
＋3	MOSCOW	モスクワ	●	メッカ, ナイロビ
＋4	DUBAI	デュバイ		
＋5	KARACHI	カラチ		●タシケント
＋6	DACCA	ダッカ		
＋7	BANGKOK	バンコック		プノンペン, ジャカルタ
＋8	HONG KONG	ホンコン		マニラ, 北京, シンガポール
＋9	TOKYO	東京		ソウル, 平壌
＋10	SYDNEY	シドニー	●	グアム島, ●ハバロフスク
＋11	NOUMEA	ヌメア（ニューカレドニア）		ソロモン諸島
＋12	WELLINGTON	ウェリントン	●	フィージー諸島, ●オークランド
－11	MIDWAY	ミッドウェイ		
－10	HONOLULU	ホノルル		
－9	ANCHORAGE	アンカレッジ	●	
－8	LOS ANGELES	ロサンゼルス	●	●サンフランシスコ,●バンクーバー, ●ドーソン（カナダ）
－7	DENVER	デンバー	●	●エドモントン（カナダ）
－6	CHICAGO	シカゴ	●	●メキシコシティー
－5	NEW YORK	ニューヨーク	●	●ワシントンDC,●モントリオール
－4	CARACAS	カラカス		●サンチャゴ（チリ）
－3	RIO DE JANEIRO	リオデジャネイロ	●	●ブエノスアイレス

※）サマータイムの各都市における採用は、年毎に変わる可能性がありますのでご注意ください。
この表は1992年8月時点の採用状況に基づいて作成してあります。

■世界の時間が分かります（ワールドタイム用回転ベゼルモデルの場合）

- 回転ベゼルに右図のような都市名があるモデルに限り世界の主要都市の時刻が分かります。
- 24時針が示す位置に、回転ベゼル上の代表都市名を合わせると各地の時刻が読み取れます。



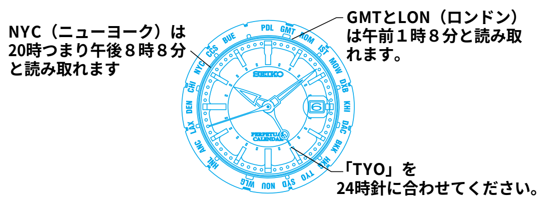
〈具体的な方法〉日本国内で使う場合を例にとって説明します。

①24時針が日本時間に合っていることを確認します。
午前午後の違いに注意してください。「午後2時」の場合は「14時」を指しているはずです。

※合っていない場合は、「時刻の合わせかた」を参照し、合わせ直してください。

※24時針を日本時間ではない別の地域の時刻に合わせてご使用の場合は、回転ベゼルの合わせかたで使用できますので合わせ直す必要はありません。

②回転ベゼルを回し、24時針が示している位置に「TYO」を合わせます。これで、世界各都市の時刻が読み取れます。「回転ベゼル上の都市略称」のそれぞれの位置の文字板上にある「24時間制の目盛り」とで読み取れます。


NYC（ニューヨーク）は20時つまり午後８時８分と読み取れます
GMTとLON（ロンドン）は午前１時８分と読み取れます。
「TYO」を24時針に合わせてください。

イラストは現在時刻が午前10時８分の場合を例としてあります。

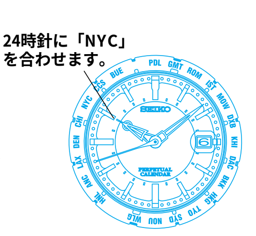
※世界各地の時刻を知りたいときは、その都度24時針に「TYO」を合わせてください。

24時針を別の地域の時刻に合わせてご使用の場合

- 24時針をニューヨークに合わせ、時分針を日本時間に合わせてあるような場合。

〈24時針がニューヨークに合わせてある場合を例にとって〉

●回転ベゼルを回し、24時針が示している位置に「NYC」を合わせます。これで、世界各都市の時刻が読み取れます。「回転ベゼル上の都市略称」のそれぞれの位置の文字板外周部にある「24時間制の目盛り」とで読み取れます。



【回転ベゼル上の都市略称について】

都市略称と都市名は下表のとおりです。時差等については「(4) 都市と時差の比較表」を参照ください。

都市略称	都市名	都市略称	都市名	都市略称	都市名
GMT	グリニッジ標準時	HKG	香港	DEN	デンバー
ROM	ローマ	TYO	東京	CHI	シカゴ
IST	イスタンブール	SYD	シドニー	NYC	ニューヨーク
MOW	モスクワ	NOU	ヌメア	CCS	カラカス
DXB	デュバイ	WLG	ウェリントン	BUE	ヴェノスアイレス
KHI	カラチ	HNL	ホノルル	PDL	アゾレス諸島
DAC	ダッカ	ANC	アンカレッジ		
BKK	バンコック	LAX	ロサンゼルス		

■24時目盛り付き回転ベゼルの使いかた（24時目盛り付回転ベゼルモデルの場合）

●回転ベゼルを回すことで、24時針で別の時間が読み取れます。

＜回転ベゼルを回す方向と量は、下記の方法で求められます＞

[回転ベゼルを回す方向と量] Eは、

[24時針のGMTからの時差C] － [これから知りたい地域のGMTからの時差D] で求められます。

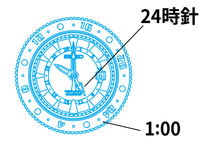
E＝C－D

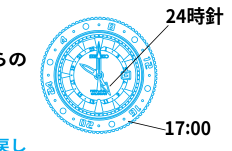
この例では、24時針が日本時間に合っていますので、C＝＋９

a) 1つの例として、これから知りたい地域がGMTとすると、GMTからの時差が「0」ですから、
D＝０
E＝C－D＝（＋９）－（０）＝＋９
回転ベゼル目盛りで、GMTが「1:00」と読めます。
※Eが「＋」のときは、回転ベゼルを右回転、「－」のときは左回転させます。

b) その他の例として、これから知りたい地域が「ロサンゼルス」とすると、GMTからの時差が「－８時間」ですから、D＝－８
E＝C－D＝（＋９）－（８）＝＋17
右回転で17時間回します。（結果：左回転で７時間でも同じです）
ロサンゼルス時間で「17：00」と読めます。

※この使用用途が不要になった場合、回転ベゼルは元の位置「24」マークを12時間位置に戻してください。



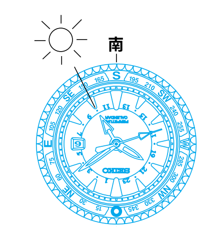


■簡易方位計（24時針を使い方位を知る）　（方位表示付回転ベゼルモデルの場合）

- 〈簡易方位計を使用する際の注意事項〉
  - 北半球でのみ使用可能ですが、緯度の低い地域（北回帰線より南）では季節により利用できない場合があります。
  - 太陽の位置が確認できることが必要です。
  - 24時針が今いる場所の現在時刻に合っていることが必要です。（「1 時刻の合わせかた」を参照）
  - あくまでも簡易方位計であり、正確な方位を知るためのものではありません。

●具体的な使用方法

①回転ベゼルの「◎」を12時方向へ合わせます。
よってそれぞれの方向に下記のようなマークが合います。
３時方向：Ｅ（東）
６時方向：Ｓ（南）
９時方向：Ｗ（西）



②時計を水平に保ち、時計の24時針を太陽の方角に向けてください。その時、ベゼルの方位がそのまま方位となります。また、ベゼルには15度毎に方位が印されています。

■使用電源（キネティックE.S.U.）についてのご注意

●この時計は一般の電池の代わりに専用のキネティックE.S.U.を電源として使用していますので、電池交換は不要です。

●時計を保管する際、リュウズを2段引いて運針を止めても、IC制御の電流が消費されるため、持続時間の維持はできませんのでご注意ください。

●フル充電からの持続時間については、長い間ご使用いただく間に若干短くなる場合があります。

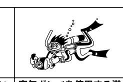
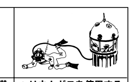
⚠注意 破裂、発熱、発火などの恐れがありますので、一般の銀電池は絶対に組み込まないようご注意ください。

■使用電源（キネティックE.S.U.）についてのご注意

⚠注意

防水性能

- 時計の文字板または裏ぶたにある防水性能表示をご確認の上、使用可能範囲にそって正しくご使用ください。
- 水分のついたままリュウズを回したり、引き出したりしないでください。時計内部に水分が入ることがあります。

時計の防水表示 上段：文字板 下段：裏ぶた	使用例 防水の基準	 雨や洗顔など日常生活で予想される「水がかかる」程度	 水に関係の深い仕事（農水産・園芸・食堂など）やスポーツ（水泳やヨット）で使用できる程度	 空気ボンベを使用しない潜水（スキンダイビング）や入浴に使用できる程度	 空気ボンベを使用する潜水（スキューバ潜水）に使用できる	 ヘリウムガスを使用する潜水方式（飽和潜水）に使用できる
表示なし 表示なし	非防水	×	×	×	×	×
表示なし WATER RESIST	日常生活用防水（3気圧防水）	○	×	×	×	×
表示なし WATER RESIST WATER RESIST 5 BAR のいずれか	日常生活用強化防水（5気圧防水）	○	○	×	×	×
表示なし WATER RESIST 10 BAR のいずれか マークWATER RESIST 又は WATER RESIST 10 BAR	日常生活用強化防水（10気圧防水）	○	○	○	×	×
表示なし WATER RESIST 20 BAR のいずれか WATER RESIST 20 BAR	日常生活用強化防水（20気圧防水）	○	○	○	×	×

⚠警告 この時計は、飽和潜水／空気潜水には使用できません。

⚠注意

- 水分のついたままリュウズをまわしたり、引き出したりしないでください。時計内部に水分が入る場合があります。
- 海水に浸した時や多量の汗をかいた後は真水で洗い、よく拭き取ってください。

⚠注意

日常のお手入れ

- ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。汚れたままにしておくとサビて衣類の袖口を汚したり、かぶれの原因になることがありますので常に清潔にしてご使用ください。
- 時計を外したときは、柔らかい布などで汗や水分をふき取るだけで汚れやケース、バンド、及びパッキンの寿命が違ってきます。
- バンドはときどき柔らかい歯ブラシなどを使い、部分洗いなどのお手入れをお願いします。
- 海水中などでの使用のあとは、化学薬品類を使用せず、ためた真水で洗ってください。
- 回転ベゼルの下に汚れなどがたまり、回転が重くなることがありますので清潔にしてご使用ください。

⚠注意

かぶれやアレルギーについて

- バンドは多少余裕を持たせ、通気性をよくしてご使用ください。
- かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれをきたすことがあります。
- かぶれの原因として考えられますのは、
  1. 金属・皮革に対するアレルギー
  2. 時計本体及びバンドに発生した錆、汚れ、付着した汗等です。
- 万一肌などに異常を生じた場合は、直ちに使用を中止し医師にご相談ください。

その他、携帯上ご注意いただきたいこと

- バンド着脱の際に中留などで爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 転倒時や他人との接触などにおいて、時計の装着が原因で思わぬケガを負う場合がありますのでご注意ください。
- 特に乳幼児を抱いたりする場合は、時計に触れることでケガを負ったり、アレルギーによるかぶれをおこしたりする場合もありますので十分ご注意ください。

保管について

- 「－10°C～＋60°Cからはずれた温度」下では機能が低下したり停止したりする場合があります。
- 磁気や静電気の影響があるところに放置しないでください。
- 極端にホコリの多いところに放置しないでください。
- 強い振動のあるところに放置しないでください。
- 薬品の蒸気が発散しているところや薬品にふれるところに放置しないでください。
  （薬品の例：ベンジン、シンナー、などの有機溶剤およびそれらを含有するもの－ガソリン、マニキュア、化粧品などのスプレー液、クリーナー剤、トイレ用洗剤、接着剤など－水銀、ヨウ素系消毒液など）
- 温泉や防虫剤の入ったひきだしなど特殊な環境に放置しないでください。

定期点検について

ながくご愛用いただくために、２～３年に一度程度の点検調整をおすすめします。定期的な点検により目に見えない部分が原因となる損傷を未然に防ぎ、より安心してご使用いただけます。点検の受付けはお買い上げ店でいたしますが、点検作業はすべてセイコーサービスセンターで行います。点検の結果によっては調整・修理を必要とする場合があります。部品交換の時は「セイコー純正部品」とご指定ください。